

グローバルスタンダードとその取組み

第2回 通信・放送の融合・連携環境における標準化政策に関する検討委員会 説明資料

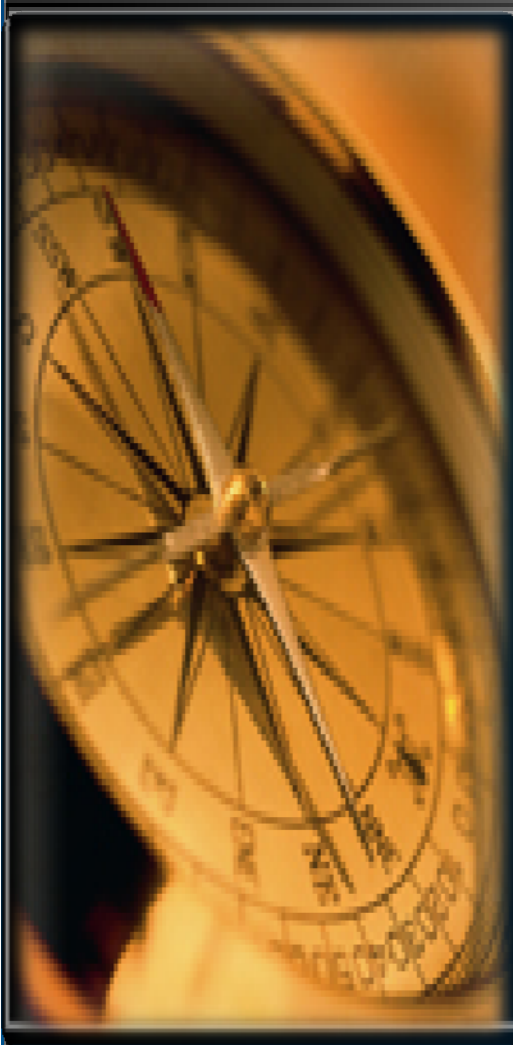
畑中 康作
インテル株式会社 技術政策推進本部

2009年10月30日



技術・イノベーションの推進のために

<http://www.intel.com/standards/index.htm>



標準化とその取組み:

- 世界中で使われるインフラは、安定した、かつ、一貫性のある機器間の相互接続性のうえで成り立っている。
- インテルは、標準化からイノベーションを産み出すために、グローバルな市場を見据えている業界関係者と協業しながら、多くのリソースを投資している。



技術・イノベーションの推進のために

<http://www.intel.com/standards/index.htm>



「グローバルスタンダードは、つかってみたいという消費者の意欲をうみだす。また、製品があつというまにつながって動きだすという消費者の当たり前の期待に応えるものである。」

— *Justin Rattner, Intel Senior Fellow, Vice President, Director, Intel Labs and Intel Chief Technology Officer*

なぜ、消費者は製品が標準技術に基づく製品かどうかを気にすべきなのか。

「消費者は、お店に行って、標準技術を買い求めるわけではありません。」

しかし、消費者は、標準技術や相互接続によって生み出される便利さを常に望んでいます。

また、製品が期待通りに動作しない場合に、それは標準技術に基づいていないから、と考えるでしょう。」



標準化事例1: イーサネット

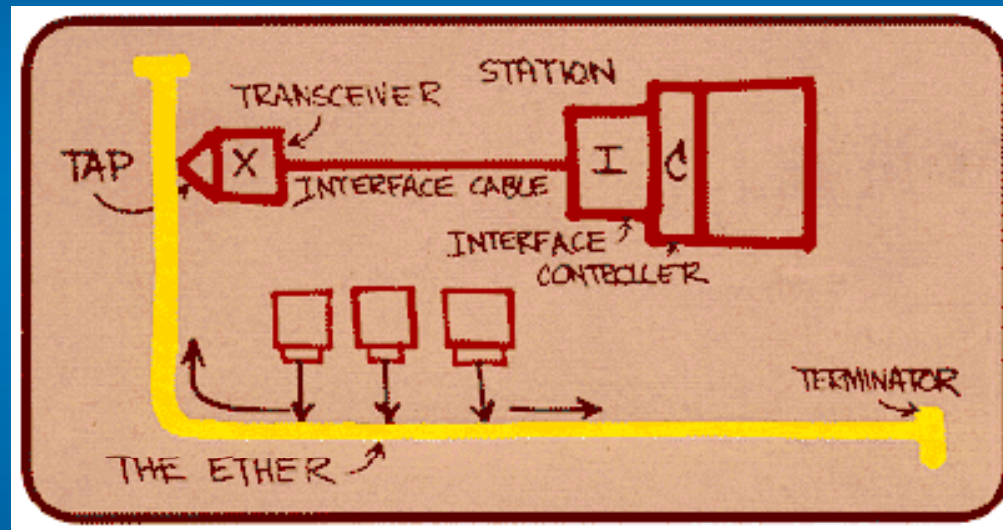
http://www.intel.com/standards/case/case_ethernet.htm

イーサネットの歴史:

1973年 ロバート・メトカーフ(米Xerox社)がイーサネットに関するアイデアをうみだす。

1980年 DEC / Intel / Xeroxが発足したDIXコンソーシアムがイーサネット仕様を発表。

1985年 IEEE*がDIXコンソーシアムの仕様をもとに国際標準であるIEEE802.3を策定。



イーサネット・アライアンス(EA)におけるインテルの役割:

- インテルは、イーサネットの改善点を議論する場として2005年にEAを設立する。
 - EAは、様々な業種からメンバーが集まり、新しいイーサネットの技術と標準を議論した。それが標準化の円滑な運用とスピードアップにつながるフォーラムとなった。
- イーサネットの標準化を契機に、PCのネットワーク化が進み、今日のインターネット社会が形成された。

* IEEE: The Institute of Electrical and Electronic Engineers. Inc.

© 2009 Intel Corporation. 無断での引用、転載を禁じます。



標準化事例2: Digital Transmission Content Protection (DTCP)

http://www.intel.com/standards/case/case_dtcp.htm

背景:

- 1995年頃、デジタルのまま送受信できるインターフェイスの必要性が顕著になってきた。
- しかし、映画会社は不安になっていた。その技術革新は同時に、デジタルデータから違法にコンテンツを盗み出し、無限のコピーを作り出すことも可能になりうる。

DTCPの開発:

- インテルは、日本の家電製造業者4社とともに、DTCP標準仕様を開発した。
- そのなかでインテルは、3つの目標を設定した。
 - 1) デジタル・コンテンツが柔軟に行き交う世界を作り出し、消費者の選択をうみだす。
 - 2) コンテンツ事業者・コンテンツホルダーが知的財産に見合う対価を享受できる権利を守る。
 - 3) コンテンツ保護はできる限りシンプルで、かつ、安価なものにする。

DTCPに関する交渉:

- 映画会社などが全て“コピー禁止”を選択し、消費者が不満に感じてしまうことを危惧した。
- そこで、DTCPのポリシーや契約を規定して、ユーザの利便性を定義した。
- 数年間の交渉を経て、複数のスタジオとDTCPに関する契約を締結することができた。



標準化からインテルが学んだこと

- 消費者は標準化から生み出される便利さを望んでおり、その期待に応えるべきである。
- 標準化を成功に導くためには、あらゆるステイクホルダーの考え方を正しく理解・評価すべきである。
- 標準化はゲームである。ルール作りに参加し、その主導権を握ることは重要である。



